

「第 20 回 製剤機械技術学会 仲井賞」
受賞者の選考結果について
The 20th NAKAI Award of Japan Society of
Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員会 委員長 **瀬田 康生**
Yasuo SETA
Chair of Selection Committee of the NAKAI Award

本学会では創立 10 周年を機に、2000 年より表記の賞を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕彰しております。

仲井賞選考委員会において、応募内容について新規性、実用性、社会における貢献度の観点から、慎重かつ厳正に審査した結果、下記を「第 20 回 製剤機械技術学会 仲井賞」受賞者として会長に報告し、理事会にて受賞者が決定いたしました。

記

- ・ 受 賞 者：浅田 拓海、吉田 勝（大日本住友製薬株式会社）
- ・ 受賞業績題目：新規高薬物含有球形顆粒製造技術 OPUSGRAN[®]による製剤と技術開発
- ・ 受賞理由：浅田 拓海氏らは、高速攪拌造粒機内において、溶媒添加により表面に溶媒を含ませた高分子の粒子に原薬が付着・積層した後、次第に溶解した高分子が積層した薬物層へ拡散することで中空の粒子を形成する、極めて新規性の高い OPUSGRAN 技術を開発した。同技術により得られる顆粒は高薬物含有で球形かつ中空であり、従来このような顆粒を効率良く生産する手段はなかった。またこの造粒機構も新規である。同技術は従来困難であった小型化製剤や口腔内崩壊錠さらに発展して放出制御の可能性もあり、広範囲の展開が期待できる。すでに 30 種類以上の薬物に適用可能と報告されており実用性も高いものとする。従来の技術では製造できなかった中空粒子の生産やコーティングをせずに放出を制御できることを考慮するとコスト面も含め製剤生産工程に対する貢献度は非常に大きいと考える。
以上のように、本業績は、新規性・進歩性、社会的貢献度から特筆すべき技術水準と判断でき、仲井賞に正に相応しい業績であるとする。

以上